

## 巻頭言

# 新春を迎えて

惣 津 律 士

明けましてお目出とうございます。

農家の皆さんは定めし希望をもってお正月をお迎えになったことと思います。私達はこのささやかな望みをぜひとも実現したいものです。県政振興計画の中で、畜産は大きい役割をとげながら年とともに成長してきております。33年の畜産物生産総額は60億円で、本年は68億円に達する見込でありまして、昭和30年を100とした場合には実に144%という数字を示すにいたしました。

昨年の本県畜産の特徴といえば、第一に生産者が、旧来の殻から脱皮して、新しい流通体制の確立に踏み出したことであり、第二に自己の経営を反省して、畜産の収益性の向上による改善に前進したことでしょう。これ等は春以来社会的に大きい波紋を投じた牛乳問題における生産者の力にみられますし又畜産物の系統出荷の伸びにも現われております。更に農協近代化を目ざしての畜産共同施設の面にも、家畜家禽の取り入れ方にもみられるのでありまして、畜産が近代性を帯びてまいったともいえましょう。

これはたしかに大きい改革でしょうが、しかし現状の裏面を見ると、個々の農家の力又は単協の力ではどうにもならない大きい壁につきあたっておることをお感じになっていることと思います。たしかに畜産の真価が未だ十分に認識されていませんし、又その経済形態が他と比較して、あまりに前近代的である面が、未だ多分にあることを認めざるを得ません。

私近来、牛乳についても、又家畜市場の運営についても、又肉牛、卵の共同出荷についても、いやになるほど、苦しみを味わいました。そして、自己の微力を

なげき、責任を感じ、更に団体の弱さに歯ざしりしてきました。現在岡山県に畜産団体の整備統合を進めています、なかなか容易ではありません。私はあまりに長い間、どうにもならない力でしばられ、自然的にあきらめの状態にあったことの惰性が現在内在している畜産界自体の反省を先ず求めざるを得ないのです。

本年は恐らく、畜産によい意味での改革が見られるであろうことを楽しみにしております。それは私共が、直接担っている畜産を、その生産から流通、消費の過程において、その不合理を少なくして、もっともっと健全化の方向に努力することによって実現できるものでありましょう。